

ドライブシミュレーターを用いた運転リハビリテーション

訓練ソフト「ランダムソフト」の特徴について

桔梗ヶ原病院

園原 和樹

○抄録

ドライブシミュレーターには(1)運転技能の評価、(2)運転技能の再獲得や運転習慣の再学習のための訓練機器の意義がある。当院ではドライブシミュレーターの走行コースに難易度を設定し、患者の回復段階にあわせて適切な難易度の走行コースによる運転リハビリテーション訓練を実施している。運転リハビリテーション訓練では、ドライブシミュレーターを繰り返し実施することで走行コースや危険場面を覚える「誤学習」の問題が指摘されている。今回、我々は本田技研工業株式会社、株式会社マネージビジネスの協力のもと、誤学習の低減を目的とした運転リハビリテーション訓練の専用ソフトとしてHonda セーフティナビ「ランダムソフト」を開発した。

ランダムソフト開発に際して、既存のドライブシミュレーターの走行コースの中から危険予測体験と環境別走行体験の2つを選出した。選出された走行コースに難易度を設定した後、難易度に基づき走行コースが複数登録されたコースパッケージを作成した。ランダムソフトを用いて運転リハビリテーション訓練を実施する手順は、ランダムソフトを起動後に適切な難易度のコースパッケージを一つ選択するのみと簡易である。その後、ランダムソフトは(I)前回使用した走行コースを除外して、(II)あらかじめコースパッケージに登録された走行コースの中からランダムに一つ選択して実行する。

ランダムソフトの活用により(A)誤学習を低減して、(B)適切な難易度の走行コースを用いた、(C)運転リハビリテーション訓練を簡易に実施できる。